

明治四十年一月ヨリ

雪合戦の記

一月廿日、午後一時、我寄宿舎ニ於テ有志ノ者エルムノ下ニ打集リ、南北ニ分レ、北軍ハ金子、三田村、松前、山下、江川等ニテ、南軍ハ吉田、松本、田中、曲尾、小林、松本、和田等ノ勇志ナリ。

北軍ハエルムト籠城トノヨキジブツヲ利用シテ猛射ス、我軍ハ河ヲ境ヒニ徐ニ雪玉ヲ掘リテ投グルノデアル。弾丸命中スルトキハ玉ノ砕ケテ飛ンデ散ル様実ニ壮快ナリ。

次第ニ接近シ相戦フ。益々近ヅキ、遂ニハ雪ヲ掘ルイトマナシ、我軍ノ大将吉田閣下ハ突進ノ号令ト共ニ猛進シ、敵ノ大将トクミ合ふ、両軍ハ入乱レ、或ハ倒サレ、或ハ倒シ、頭ヨリ足端マデ白粉トナリ、クミ合ひつゝ各ニマロビ落チヌ、夢中トナリ打戦フ事暫ク、何レノ勝負ヲ決スル能ハザルノ常ノ激戦ナリキ、時ニ休戦ノ鐘ハ響ケリ、両軍ハ各室ニ帰り勇シク戦争談ヲナス……

嗚呼今日ノ青年ガ虚偽ナル平和ニ仮睡シ、早ヤクオトナブリ其元氣ノ銷沈セシ傾向アリ、実ニ痛歎ノ至リニ堪エズ。

親愛ナル我寄宿舎ノ諸君ヨ。

優美ト豪壯トノ氣質トヲ持タレン事希望ス。

清き天地

田中生

北五条通りに青年寄宿と甲板の掛った寄宿がある。

其の前にだらしもなき一人の青年が立って居る。

通りを遙に望めば、今は夕日は西山に没せんとして居る。此の偉大なる札幌の夕、此の崇高ナル朔北の天地、あゝ吾人は■づ、吾人の行為が此の清き暖き天地を汚すあらん事を。

人生の最大快事

梅林のなかで戯れた事もあった。

桜花の下で瓢を弄んだ事もあった。

下宿の二階で大言壮語した事もあった。

ビールの杯を手に敷島を口にしたりした事もあった。

蓋し人生の最大快事と思ったからである。

然れども **Gordon** ノ家庭の和樂を見、

南州が物債の慾を去って後あれ程の功績を表したのを見るに至って愕然たらざるを得なかつた。

翻然と悔悟して以来前日の事は兒戯に類するものと見ゆるに至つた。

あゝ人生の最大快事は果して何辺に存在するか？

(三月三十一日) [田中生と同筆]

游言録

石津半治

有名ナル歴史家ニーブル曰く亡国は常に自殺的ナリト。外襲ノ腐食ハ防ギ易シ、内ヨリ醸セル墮落ハ止メ難シ、我寄宿舎ヲ憂フルノ士戒心シテ得ル所アラン。

醜キ人ハ如何ニ着飾ランモ其醜キヲ蔽フ能ハザルガ如ク、美シキ人ハ如何ニ着飾ラザルモ其ノ美シキヲ害セザルモノナリトハ透■セル真理ナリ。故ニカノ馬子ニモ衣装ト言フコトハ浅薄ナル見解ナリ。

詩人ロングフェロー曰ヒケリ、

Art is long, and Time is fleeting, and our hearts through stout and brave, still, like muffled drums are beating funeral marches to the grave.

之ノ精神ヲ知ラズシテ日々時ヲ空費シ

Time is money

ノ格言ヲ悟ラズシテ人生ヲ醉生夢死スルモノ又不幸ナル哉

藻岩ガ崇高ノ面影ヲ眺メ石狩平野広莫限リナキノ偉觀ヲ見ルトキ其更ニ天ヨリノ消息ガ之等自然界ニ充テルヲ覺ユ。

独立、アンビションヲ以テ精神的ニ養ヒ来タリタル我ガ札幌学生今如何ニ。

ローエル歌ッテ曰ク

I shouted, but he could not hear;

Made sings, but these he could not see;

And still, without a doubt or fear,

Broadcast he scattered anarchy

之ヲ現今ノ札幌学生ニ之ヲ用フ、又不可ナカラン。

[ここまで石津半治氏の筆]

思フマヽ

莊司経雄

カーライルヨリ

Make yourself an honest man, and then you may be sure that there is one raised less in the world.

余ハ常ニ此句ヲ誦スルモノナリ。

余ハ自ラ決シテ正シキモノニアラズ、而モ余ハ次ノ事ヲ云ハントス、矛盾モ亦甚シト云フベシ、サレド寄宿舎ヲ愛ス故ニ余ハアエテ諸君ノ前ニ此直言ヲナス、願ハ此諒察セラレン事ヲ。

- 宇宙ハ神ニヨリテ作ラレタリ、故ニ自然ノカハ神ノカナリ。
- 自然ノカハ神ノカナリトセバ自然ノ法則ハ神ノ法則ナリ。
- 神ハ崇高ナルモノナリ、故ニ自然ノ法則ハ崇高ナルモノナリ。
- 道德ノ根源ハ自然ノ法則ニアリ、故ニ自然ノ法則ニ違反スルモノハ道德ノ敵ナリ。
- 人類ガ社交的動物ナル事ハ生存競争上ヨリ起リタル自然ノ結果ナリ。
- 人類ガ社交的動物ナル故ニ人類ハ諸種ノ団体ヲ作り然シテ文明進歩ニ伴フテ団体ノ種類方法益々副〔複〕雜ニ進ムナリ。
- 団体ハーツノ **body** にして其 **body** ヲ組織スル分子ハ個人ナリ
- body** ノ腐敗ハ其 **body** ノ少数分子ノ腐蝕ヨリ始マル。故ニ **body** ヲ全フセンセバ、或ハ時ニヨリテハ少数分子ヲ犠牲トスルヲ用〔要〕ス。
- 分子ガ **body** ヲ組織スレバ其分子ハ一定ノ範囲内ニ於テ自由ニ運動シ得レドモ其版囲外ニハ運動シ得ズ、若シ版囲外ニ運動セバ、其 **body** ハ瓦解スルナリ。
- 個人ガ或団体ニ属スルトセバ其個人ハ其団体ノ許ス版囲内ニ於テ自由ノ權アルト供ニ又其団体ヲ組織シ、其形態ヲ保ツニ必用ナル法則ヲ遵守スルノ義務ヲ有ス。
- 寄宿舎ハ学生ノ修養（或ハ精神上ニ、或ハ學問上ニ）ノ便ヲ計ル目的ヲ以テ設立セラレタル団体ナリ。
殊ニ我青年寄宿舎ハ尊キ理想ヲ持チテ学生ノ修養場トシテ設立セラレタル寄宿舎ナリ。
- 青年寄宿舎ハーツノ団体ナリ。故ニ青年寄宿舎ハ其理想ヲ實現センガ為団体トシテノ規約ヲ有シ、其分子タルベキ舎生ハ其規約版囲内ニ於テ自由ナルト供ニ又規約ヲ遵守スルノ義務ヲ有ス。
- 我舎ハ学生ヲ修養セシムルヲ以テ目的トセル団体ナルヲ以テ其舎生タルベキ人ハ自ラ修養シ又他人ノ修養ヲ防〔妨〕害セザル様務ムルヲ以テ第一ノ義務トスベキナリ。
- 吾人学生ハ何ノ為ニ此長カラザル生涯ノ貴重ナル大半ヲ修養ニ費シツ、アルカ
（之ヨリ余ノ云ハント欲スル事ハ石津君完全ニ述ベタルヲ以テ余再ビ之ヲ言ハズ）
- 団体ハ個人ノ我儘ヲ許サズ、故ニ団体ニ属スル個人ハ時ニ自己ノ慾望ヲ犠牲トセザルベカラズ
- 団体ノ生活ハ互ニ愛ヲ以テセザレバ平和ヲ保ツ能ハズ
- 愛ノ局地ハ自己ヲ犠牲ニ供スルニアリ。
- 自己ヲ犠牲ニ供シ互ニ相愛シ互ニ相親モウ、ソコニ云フベカラザル平和、云フベカラザル愉快ヲ生ズ、即チ自己ノ慾望ヲ犠牲トシテ人ニ捧ゲ、ソレニヨリテ自己ハスツベカラザル平和ト愉快トヲ得ルナリ。
- 聖書ニ曰ク

受クルヨリ与フルハ幸ナリ

ト自己ノ欲望ヲ人ニ与へ始〔初〕メテ自己ハ大ナル幸ヲ得ルナリ。

偶感録

丹治七郎

- ◎今ヤ春日暖ニシテクロバーハ地ヲ抽ンズルー寸、elm モ将ニ発芽セントス、実ニ来ラン春ノ如何ニ愉快ナルヤ。
- ◎此ノ愉快ナル時ニ当リ我々舎生一同無事壮健ニテ日々理想ノ目的ヲ追ヒツ、アルハ御互ニ慶スベキ事デアル。
- ◎新ニ委員モ改選ニナリ、雪消エ万木千草ノ生ヒ出デ万物皆活気生ズ出タルノ中、舎務モ亦益々発展見ルベキモノアルナラン。
- ◎而シテ不肖我輩モ委員ノ末席ヲ汚スノ光荣得タ。シテ小生ハ賄委員トナッタノデアル。
- ◎サテ賄ト云ヒバ実ニ重大ナルモノデ恐ラクハ諸委員中最モ重大ナル責任モ有スルノデアル。若シ僕ガ有スル責任ヲ一日之ヲ空フシタラドーダ、諸君ハ死スデアロー。
- ◎経済学者ナラズモ誰シモ知ル事デアル「食物ノ善悪ハ金銭ノ多少ト正比例スル」事ヲ。
- ◎而シ我舎ノ食費ハ月幾千〔許〕ト畧々一定シテアルノデアル。此ノ一定額ニテ美食ナラズモ慈養アル、変化アル食物ヲ諸君に御馳走スルニハ中々ニ才機アル委員ナラズバ出来ナイ。僕ノ様ナ田舎漢ニテ大食家（十指ノ指ス所、十目ノ見ル処）ハ食事ノ方ニハ不適當デアロー。
- ◎食堂ニテハ各自清潔ヲ守ッテ頂キタイ。
- ◎食物ヲ少シ計リ残ス事ハ勉メテ止メテモライタイ。上品振ルノカ何カ知ラネド少シ計リ食ヒ残ス人ガアル。青年トシテアレ程ノ少量ヲ食ヒ尽セヌ筈ハナイ。上品カ何カ僕等ニハ少シモ上品ダニ見エヌ。而シ無理ニ欲セヌモノヲ残り無ク喰ヒ尽セト云フデハナイ。
- ◎不注意（否、ぶしょうスルデアロー）デ鉢ノ蓋ヲコロガシテ人ノ食器ヤ箸立ヲ倒シタリ汁椀ヲ倒シタリスル事ガアル、謹〔慎〕ムベキ事デアル。
- ◎香ノ物ヲ余リニ沢山取りテ残ス人ガアル。見憎キノ至デアル。初メニ少シヅ、自分ノ食スル丈取レバ敢テ食ヒ残サズトモスムノダ。
- ◎御汁ヤ御飯ヤ其他香物ナドヲ食ヒ散ラス人ガアルガ此等モ余リ見善キ事ナラズ、特ニ後刻ニ食スル人々ノ迷惑トモナルカラ勤メテ散ラサヌ様ニシタラ好カロウ。
- ◎イヤ勤メズトモ少シ氣ヲ付ケレバ御鉢ノ蓋ヲ転ガシタリ、御汁ヲ翻シタリ、香ノ物ヤ采〔菜〕ナドヲ残サズトモスムノダ。
- ◎此等ハ皆、不精カラ来タルノデ少シク注意スレバ好イノダ。
兎角吾人日常ノ事ハ不精ヨリ失敗等ヲ来タスノダ。
風邪ニ侵サル、腹ヲ痛メル等モ多クハ不精カラ起ルノダカラ戒シムルベキハ吾人ノ不

精デアル。

- ◎個人ノ事ニハ不精セザル人モ団体ニ関セル事ニナルト兎角ニ不精スルノハ善カラヌ事ダ。
- ◎食事ノトキテーブルノ上ニモダレテ両手ヲ動かサズニ頭ヲ動かシテ食フ人ガアルガ、他カラ見テ非常ニ見苦シキ故、一個人ナラズ、多クノ人ノ前ニテハ此等ノ見苦シキ態ハ一切止メニシタイモノデアル。
- ◎要スルニ以上述ベタル事ハ一言スレバ団体ニアル我等ハ自個一人ヲノミ思ハズ莊司君モ云ハレタ如ク「衆人ノ為メ」ト云フ心ヲ常ニ持ッテモライタイ。
- ◎無遠慮ナル事ヲ言ヒテ甚ダ失敬!!!

(四月三日)

◎眼前ノ事実

和田粹之介

「十九世紀ノ特色ハ明カニ先例ナキ程ノ驚クベキ物質的繁栄ニテアリキ、其ノ大ナル勝利ハ物質的方面ニ於テ得ラレタリキ、其ノ労働ノ結果ハ二三里ヲ距ツル遠方ニ向ヒ每秒十二発ノ速度ヲ以テ爆裂弾ヲ発射スベキ大砲ノ制作ナリ。十九世紀ハ機関車ヤ蒸気船ヤ「ダイナモーター」ノ世紀ニテアリキ」

斯クノ如キ物質繁栄ノ世ニ在リテハ『物質ト勢力』トハ唯一ノ實在ニシテ其ノ他ニ實在ナルモノアルコトナシ。金銭ヤ土地ヤ家屋ヤ是等ノミガ真ノ實在ナリ、斯クノ如キ時ニ當ッテ成功セント欲スル者ハ己レノ感情ヲ制セザル可ラズ、他人ノ批評ニ対シテハ鉄面皮ナルベシ、精神トカ哲学トカ漠トシテ掴ム能ハザルモノニ対シテハ少シモ顧ミルヲ要セズ。

要スルニ實在ノ範圍即物質ト勢力ノ範圍ヲ超ユルハ唯ダ空ノ空ナルモノナリ。此ノ時ニ當リ精神的ノ事ヲ論ズルハ抑モ誤レリ、宗教トカイフモノハ今日ニ於テハ明ラカニ迷信ニシテ最早一顧ノ価ナシ。進化論ノ一般ニ是認セラル、今日「神其ノ形ニ象ドリテ人ヲ作レリ」トハ奇怪千万ナリ。或ハ死人ヲ蘇生セシメシトカ瞽者ノ目ヲ開キシトカ、其荒誕亦甚ダシ、要スルニ宗教トカイフモノハ吾人ニハ一切不必要ナリ。二千年若シクハ数千年昔ノ歴史及人物ガ我ト何ノ關係カアル、吾人ハ須ク現存セル實在ニ向ッテノミ努力スルコソ必要ナレ、誠ニ然リ、其ノ言フ所素ヨリ善シ、然レドモ斯クノ如キ言ヲ為ス者ハ、現今地球上幾億万人衆ガ之レニヨッテ大ナル慰安トカトヲ得、仮令其ノ中ニハ名ノミニ過ギザル人多クアリトスルモ、尚真面ナル幾多ノ卓越セル学者ガ最モ熱心ニ又最モ真面目ニ其真理ナルヲ証シテ倦ムコトヲ知ラザル一個ノ宗教アリトノ驚クベキ事実ニ対シテハ全ク顔色ナカルベシ。人或ハ基督教ハ基督ニヨリテ創立セラレシヨリ以来、次第ニ衰退シ今日ニ至テハ最早存在ノ価値ナシト思フ者モアラン、然レトモ事實ハ正ニ其ノ反対ヲ示シ、始メ基督ニヨリ基ヲ築カル、ヤ殆ンド其ノ勢力ハ見ルニ足ラザルモノナリシモ、時ヲ経ルニ從ヒ、漸ク強大ナル勢力ヲ得、近来其ノ研究ハ愈ヨ活気ヲ加ヘ、幾多人類ノカトナリ、諸種ノ學術ノ比較研究ノ結果、益々其ノ真理ナルコト証明セラレタリ。如何ニ宗教ニ冷炭〔淡〕ナル人ト雖モ斯クノ如キ大ナル事実、從ッテ又其ノ宗教ニ対シ又一顧ノ価値ナシトセンヤ。

× × × × × × ×

最近心理学ノ泰斗博士ジェームス氏ハ靈ノ經驗モ亦事實ナリトイヘリ、トイフニ非ズヤ。今ヤ實在ニ「物質トエネルギー」ノミニ止マラズシテ他ノ新タナル世界ヲ見出セリ、「靈魂」是レナリ。

× × × × × × ×

カーライルハ人二十歳ニシテ人生問題ニ心ヲ向ケザル者ハ **half-man** ナリト言ヘリ。

× × × × × × ×

素ヨリ世ニハ幾多ノ名ノミノ基督者アラン。コレ實ニ基督教研究者ガ只管研究ニ余念ナキ時ニ当リ、心ニ千鈞ノ重キヲ為スモノナリ。

然レトモ諸君ヨ、之ヲ以テ基督者ノ見本トスルハ誤レリ、世ニハ唯ダ一時便利ノ為メニ何ノ考ヘモナク、研究モセズシテ教会ニ出入スルモノアリ。コレ實ハ基督者ニハ非ズ。基督教トハ何等ノ關係ナキモノナリ。斯クノ如キ人ヲ捉ヘテ基督教ヲ云々スルハ其ノ誤謬ノ甚ダシキヤ言ハズシテ明カナルベシ。吾人ハ須ク眼ヲ更ニ高キ者ニ向ケザルベカラズ、最モ真面目ニ、最モ深く研究シタル人ニ眼ヲ注グベキナリ。然レトモ基督教研究ノ材料ハ唯ダ「耶蘇基督ト其ノ福音」是レナリ。而カモ其ノ内容ハ二千年ノ今日ニ至リ尚無尽蔵ナリト称セラル。

吾人ハ斯クノ如キ眼前ノ事實ニ対シ今少シク注意スル必要ナルベキカ。

(四月三日)

片々

柳川秀興

△今日ハ日曜デアルカラ **Sketch Book** デモ読ンデ心ノ **diversion** ヲ計ラント思ヒ、**Rural life in England** ヲ見タ。其中ニコンナ事ガアル。

It is a pleasing sight of a Sunday morning, when the bell is sending it sober merody across the quiet fields, to be hold a peasantry in their best finery, with ruddy faces and modest cheerfulness, thronging tranquilly along the green lanes to church; but it is still more pleasing to see them in the evenings, gathering about their cottage doors, and appearing to exult in the humble comforts and embellishments which their own hands have spread around them.

何ト平和ノ有様ガ見ユルデハナイカ **Roosevelt** ノ所謂奮闘的生活ノミヲ打続ケテ **Struggle for Existence** ノ奴トナラナケレバ、今後ノ世界ニハ立ツ能ハザルベキカ。

Malthus ノ **Law** ガ必ズシモ正確ニ行ワレズトモ兎ニ角世界ノ人口ガ非常ノ速度ヲ以テ増加シツハアル事ハ明カデアル、南北亞米利加ヤ阿弗利加マデ人類ヲ以テ **saturate** サルノ曉ニハ人生ハ愈生存競争ノ為ニ忙殺サルハニ至ルダローカ、諸君如何ニ解釈サルハヤ。

△ 余り勉強スルト病氣ニ罹ルト云フ、然シ吾等ニハ信ゼラレナイ、吾等ガ生レ来リタル事ヤ責任ナド考ヘテオチツイテ勉強スル時ニ何故ニ病氣ニカゝルデアローカ。苟シクモ **Noble** ナル動機ヨリシテ一事ヲ成サントスル時ハ、其業ノ完成マデハ容易ニ死スルモノデナイ、フンボルトハ九十歳ノ高令ニ達シタ。然シ **コスモス** ノ成ルマデハ死ナゝカッタ。リービングストーン ガ獐猛ナル蕃人ノ間ニ伍シ、恐ロシキ猛獸ヤ疾病ノ間ニ日ヲ送ッタ時ニ、尚彼ハ其職ノ完成スルマデハ決シテ死セザルノ自覺ヲ有シタ。

リンコーン ハ完全ニ土〔奴〕隷廃止ノ大業ヲ卒ヘタ。彼ガ暗殺者ノ手ニカゝリシハ、其ノ後ノ事デアアル。苟シクモ人道ノ為、高潔ナ動機ニヨリテ行フ事業ハ、タトヘ如何ニ困難ナルニセヨ、容易ニ挫折スルモノデナイ事ヲ信ズル。内村鑑三サンガ「意ヲ事業ニ注イデ事業ハナラズ、意ヲ神ニ注イデ事業ハ自ラ成ル」ト云ッタノハ確カニ真理デアアル。

△ 神ハ哲学デハ解セラレナイ。サリトテ無学デハ迷信ノ恐レガアル、思ニ **science**、此 **pure science** 以外ニ何ガアルデアローカ、人ハ文学ノミヲ頻リニ称赞スル、而シ **thought** ナドニ余ハ必ズシモ感服シナイ。如何トナレバ確然タル論拠ガナイモノガ多イ故デアアル。**Thinker** ニハ **faueier** ガ多イ、否 **dreamer** ガ多イ。彼ガ **thought** ハ、其年令ニ依リテ変ルモノスラ少クナイ、実ニ根拠ナキ **thought** ハ **uncertain** デアル、成程理屈ニ合フテ居ルト思ッテモ事実然ラザル事ハ少クナイ、余ハドーシテモ実験ヲ論拠ヲスル **science** ガ必要デアアル。他ハ知ラズ、余ニハ此 **Experiment** ハ要ル、余ハ実ニ覺リガ悪ルイ、直覺ナド断ジテ出来ナイ。

夫ノ **philosopher** ナドノ論説ハ、如何ニ理由アルラシク見ユルトモ、実験ノ出来ナイモノハ余ニ信ゼラレナイ。

思フニ神ハ、**pure science** ガ進歩スルニ従ッテ次第ニ明ニナルデアロー。夫ノ一部ノ宣教師連ガ如何ニ **Natural Selection** ノ **Theory** ヲ罵詈スルトモ **Darwin** ハ殆一生涯ノ長歲月ヲ費シ、無数ノ実験ヲ根拠トスル説デアッテ **Supposition** デハ無イカラ吾等ハ少シモ **Effect** デナイ。

嗚呼 **pure science** ナルカナ、**pure science** ノ進歩ヲ除キ他ニ何ガ神ヲ明ニ示ス事ガ出来ルカ **science** ヲ物質的ニ応用セントスルハ幾ラモアル、然シ神ヲ知ラントノ目的ニテ **pure science** ヲヤル人ハ甚ダ多クナイト信ズル。

サレド世ニ、智識以上ノ覺リヲ開イタ人ハ幾ラモアッタ。又在ルダロー。而シ此等ハ非常に秀逸ノ人デハアルマイカ。何人デモ單ナル禱リヤ勉強デ直覺シ得ルモノデアローカ。兎ニ角 **science** ノ前殿ヲ通過シテ後ニ神ノ正殿ニ入ル事ハ必要デアアル。此点ニ於テ牧師ナドニ皆一応農学ヲ課シタキモノデアアル。 四月七日 (Sunday)

春来る

山も森も野も川も空も土もすべて動きはぢめた。見よ、萌え出る草、一寸に足りないかも知れない。しかし、吾等に命と力と而して大なる權威を示すではないか？吾等の心は躍り、

喜びにみつ。

マツ、ト、松は、緑を次第にますではないか、イタヤ、ハンノキ、カラマツ、アカシヤの樹梢、漸く新芽を見るではないか。小鳥林中に飛んで、小流囁き、池中ノ魚おどり、群羊牧場ニ跳ね、雲は無心にして巻■〔■〕す、造化の技巧は大なるかな。

朝日を見よ、夕空を見よ、可愛き草葉に輝く露滴を見よ、風に吹かれよ、雨にうたれよ、また、く星と語り、弦月に囁け、自然の美は莊嚴なるかな。

吾事は、真に春の心を尋ねて永遠、不朽、不滅を語りたい。

(四月八日朝 松本純再)

今度の演説会ハ僕が此寄宿舎に来て以来あつた中で尤も成功したものであつた。江原君の主義あり、又自分の考ふる所を発表するに大胆なる意氣、柳川君の力あり警醒的の演説、金子君のアムビシヤスな世界的な考へ、若木君の滑稽を混ぜて■々とした該博の弁、丹治君の慎重の態度を有した弁、共ニ近来稀に見らるゝものであつた。僕のような凡骨な訥弁なものが之等諸弁士を批評するのハをこがましいが、自分が拝聴して居るとに浮んだ考へである。

如何に吾々ハ書生で、学校にある身で礼儀等ハかまわずとハ云へ相当の礼儀がある筈である。

弁士が熱心に話さるときに机に凭れ又、机に凭れ殆ど眠つたが如き觀があるのハ聴いてをるものハ兎も角、弁士に対し不快の念を与へる事だろう。之から何時の演説会の時にも注意したいものである。

又退屈になれば所かまはず欠伸する人がある、欠伸は自然に出るかも知れんが、少し注意すれば、欠伸せなくなることに違いない、之も亦注意して貰いたい点である。

弁士が熱心に真面目に吾々の眠つた心を醒さんとし吾々のために話され、自分の動作を忘れて或ハ、をかしい様な態度をせらるゝときに笑ふのハ自分の馬鹿なことを示してをるのではないか、實際自分を考へたならば、笑ふ所か泣かなければならない、笑ふべき所でハ大いに笑ふがよい。笑ふべからざる所でハよろしくをかしい事があつたとて真面目でありたい。

又弁士の演説中他の人の耳さわりになる様な話を互にせらるゝ事ハ避けて貰いたい。

之んな事を書いて諸君を咎めんとするにもあらず、又諸君を非難せんとするものでもない、自分が御話を聞いて居るときに気づいた所を述べ諸君に少し注意して戴きたいのである、只僕の希望に過ぎないのである。不肖僕が青二才のくせにこんな事を云ふのは全く自分の欠点を御話する様であるが、之から一寸した小さい事にも御互に注意して行かうじゃありませんか。

僕が諸君に対して礼を欠いた所ハ宥して呉れ給へ。

(四月十三日夜 石津半治)

日誌ノ内ヨリ。

四月二十一日（日曜）

午前ノ曇リハ暫クノ間デ晴レタカラ久シブリニ友ヲ平岸村ニ訪ネタ。折アシク不在トノ事デ方向ヲ転ジ、月寒ノ方ヘ進ンデ居ルト、思ヒガケヌ豊平ノ墓地ガ来タ、幾千ノ石碑ハ雨後ノ太陽ニ照サレテ、一際目立チテ見ユルヨーデアル。僕マダ此等ノ石碑ノ内ニ歴史ニ載ツタリ、銅像ヲ建テラレタリスル英雄豪傑ノ有ツタ事ヲ聞カナイ、而シ **true men** ハアツタ事ヲ信ズル。

“When they lie in their unknown graves, no one remembers them but a few humble people like themselves. But their recompense is in their love.No one is greater than these unknown”

Wagner

暫ク進ンデ居ルト「火葬場」ト看板ノアル建物ガ来タ、去年十月級友真島君ヲ送ッテ、秋風寒キタ空ニ無上ノ寂シサヲ感じタノハツイコナイダノヨーデアル。頑健比モ無カッタ松尾君ノ遺骸ハ此近辺ニ脉〔眠〕 ッテ居ル。今日ハ幸ニシテ残酷ナ烟リガ昇ッテ居ナイ。然シ家ノ傍ニ山ノ如ク積ミ上ゲタル薪ハイツモ孰レノ来ルノヲ待ツノデアローカ。若シ僕ガ昔ノ僕デアツタナラバ「枯枝ニ鳥」ノ句デモ誦シテ厭世ノ極ニ陥ッタデアロー。

四月二十二日（月曜）

午後体格検査ガアツタ。夫カラ直チニ調査ニ出カケタ。停車場ヘ行ッテ、其旨ヲ話スト、本部ヘ行ケトノ事デ、札幌区役所ノ楼上、嚴めしい看板ノ掛ッタ室ニ入り込ンダ、老、少ノ役人共ガ一懸命ニ何カ行ッテ居ル、中ニハ非常ニ忙シク——算盤ヲ走ラセテ居ルノモアツタ。彼ノ眼ハ全ク数字ヲ書イタ帳簿ノ上ニアル、シカモ正確迅速ニ計算ヲ行ッテ居タ。熟練ニハ感心ノ外ハナイ。

然シ僕ハ思ツタ。彼等ハ一方ヨリ **Machine** 的ニ見エル。**Machine** ハ人ノ意志ニヨリ、**Mechanically** ニ使用サル、モノデアル。苟クモ人ト生レタルモノガ一箇ノ機械トナルヨ一ナラバ態々学問ヲスル必要ハナイ。学校ハ単ニ事務家ヤ技術家ノ製造所デハナイ、我等宜しく **Wisdom** ヲ得ル事ヲ第一ノ理想トスベキデアル。我等ノ目的ハ実ニ **Light house** ノ建設デハアルマイカ。

“They that be wise shall shine as the brightness of the firmament, and they that turn many to righteousness, as the stars, for ever and ever. ”

H. Y. 生 April 22, 1907

Telescope to observe the Infinite

By H. X. Y.

When I was attending to academy I had several occasion to see the anatomy of many lower vertebrates and mammals. And when I came to Sapporo I have dissected great many specimens of plants and animals with my own hands in our laboratory. Yet I have never seen the anatomy of horse.

On the twenty-ninth last, there happened the dissection of horse in our school. Lecturer T.kato took the knife.

Though of course the principal organs are generally equal in all mammals, yet here being especially accompanied by physiological explanations, I can solemnly protest that it added much to our scanty stock of knowledge.

Dr. Boirs believes, if I can not mistaken that we can understand the absolute by spiritual experiment only.

Is the scientific investigation needless then? Let us listen to the sensitive poet.

“Flowers in the crannied wall,
I pluck you out of the cranny,
Hold you here in my hands,
Little flower, root, and all,
And if I could understand
What you are, root and all,
 and all in all,
I should know what God

And man is”

Tennyson.

Now, physiology is the science to study of mammal life. We have once heard from prf.Dr.Miyabe, that many a phenomenon in physiology is investigated at present, but most of the fountain of it remains unknown.

Every complex and perfect construction may be explained by Darwin's theory of "Natural Selection" but even prominent philosophers and scientist in this world, could not have explained the origin of species but not of life.

It would not, however, be the error conception to suggest some cause of many unknown phenomena will come to light in future, it dose not matter how science progress, The progress of science is the increase of twinkling stars in our gloomy spiritual skies.

Let us have any scientific experiments as well as the spirituals.

It would not be the problem of unable to learn, though a part, through physiology, "what the little flower is"

Let us use this science as a telescope to observe the infinite.

May 10, 1907

宗教信者ハ狂人ナリ (賢明ナル学者先生の語を用ふ) 柳川 秀興

今日の科学あるに係らず、宇宙ニ神ありとか天国ありとか騒ぎ廻ル者は正しく狂人なり、
キリスト教の親玉たる基督を見よ、苟しくも堂々たる一個の男子が磔殺さるに当りて「神
よ何ぞ我を棄て給へる」など飛んでもない泣き言を云ったではないか。日本の武士は足軽
でも自若として切腹した。六尺余りもある大男の何とか云ふ人は、事ある毎に一室に
閉ぢ籠って、神よ神よと大声に禱った。或は又、細君が死んだと云ってはビービー泣いた
人もあるそふな、全く彼等是一種の狂人である。

然し、宮川□□氏ノ言ふ処を聞け、此種の狂人、此種の愚人が在った為に阿弗利加幾万の
蕃民は、永久の良民と化した。米国に於ける無数の土〔奴〕隸は此の所謂狂人の為に永遠
の自由を得た」と。

然り此狂人ある為に世界に於ける幾億万の病者、貧者は最大の喜びを得た。此狂人となつ
たが為に幾百万の不撰生家は健康を回復して、楽しき長寿を得た。

此狂人ある為に幾億の無名の英雄が出て、吾人が幸福の生涯を送る事が出来る。

幾多賢明なる学者先生の憫笑する此狂人は、思ひがけぬ良果を結んで居る、吾人は此良果
を尊敬するものなり。

談話ノ態度

吾人ハ所謂アメリカ人ノ多クヲ好マズ、彼等ノ或者ガ鳥打帽ヲ戴キ金儲ケヲ以テ終生ノ理
想トスルヲ聞ク、吾人ハ深ク彼等ノ為ニ悲シム、然リト雖モ、此ニ一ツ働フベキモノアリ
テ存ス、彼等ガ談話ノ態度此ナリ、見ヨ、彼等ハ瞳孔ト瞳孔トヲ互ニ凝視シツヽ語ルニア
ラズヤ。

眼球ハ一方ニ於テ人ノ意志ヲ発表スルモノナリ

邦人ノ相語ルヤ、或ハ仰シ、或ハ傍視シ、勤メテ自己ノ瞳孔ノ他ニ見ラルヽノヲ避クルノ
傾向アリ、此レ人ニ対シ自己ノ意志ヲ覆ハントスル為ニアラズヤ、モシ然リトセバ、下劣
ノ事ト云フベシ。

人ニ対シテハ十分ニ自己ノ意志、理想ノ那边ニ在ルカヲ知ラシムベシ、人モシ吾人ノ何タ
ルカヲ知ラバ、去ル者ハ去リ、来ルモノハ来ル、何ゾ自己ヲ陰スルノ必要アランヤ。

明治四十年五月十日夜

小言（諸君ノ一読ヲ乞フ）

丹治 七郎

- ◎僕ハ先ニモ可笑シキ事ヲ書キテ食事ノ度事〔毎〕ニ御鉢ノ蓋ノガタント発声ス毎ニ（発声サスル毎ニ）ニ列四十余ケノ眼ノ玉ト並ビニ微笑トヲ受ケタ。
- ◎四人ノ委員中僕ノ様ナツマラヌ悪口ヲ言フ人ハ無イガ、僕バカリ度々此ノ様ノ事ヲ書キテ此ノ雑誌ヲ汚スノハ甚ダ以テ失礼デアル、而シマヽヨ、先ニモ書キタレバ、僕ノ委員ノ期限モ間モ無キ事ナレバ、徹頭徹尾悪口ヲ以テ終ラン哉。
- ◎而シテ此ノ事ハ誰シモ言ヒタクナイ、勿論聴キタクモ無イダロウ。「食事ノ拍子木ハ飯台ニ向フ事ノ一致」ト言フ事デアル。実に此ノ様ナ事ハ極メテ小事ニハ相異ナイ、シテ一箇ノ男子ガ拍子木ノ鳴ル、鳴ラヌノニ到ッテ僅ノ五分ヤ十分ヲ早く或ハ遅ク食卓ニ就イタッテ何デアロー、天下ヲ負フテ立ツベキ吾人青年ガカバカリノ小事ニ拘泥スルノハ潔キ好クナイト申ス人モアルダロウガ而シ
- ◎天下ノ事ハ大胆小心ヲ以テ処サネバナラヌノモ御存ジダロウ、見ヨ戦争ニ於ケル参謀官ノ破敵ノ遠謀ヤ実ニ堂々タリ。一度号令叱咤スルヤ振天動地ノ大活動ヲ見ルノデアルガ、而シ其一局部局部ニ付キテ見レバ実ニ小心ノ極ト謂フベシデアル、義家ハ奥羽ノ野ニ鳥ノ乱ルヽヲ見テ伏兵ヲ知り、其他馬塵ノ上ルノヤラ、村民ノ顔面、否蟻ノ歩行迄モ心ヲ留ムルデアロー
- ◎工業等モ然ラン、僅カーケノネヂニ到テモ雲ヲカト思ハルヽ大橋モ瓦解スル事アラン、林業モ亦然ラン、一山虫ノ為メニ天ヲ摩スノ大木モ空シク朽木トナル事アラン。
- ◎大略世ノ事ト云フモノハ皆此ノ様ナモノデアロー、胆ノ大ナルハ賞スベシデアルガ、心ノ小ナラヌハ又賀スベキデナイ、雪隠ノ戸ヲ今僕ガシメヅトモ五分カ十分ノ間ニハ誰カガ来テ閉ザスデアロー、且ツ、今日ハ風モ無イカラ……云フテ放置スレバ思ヒ掛ケ無キ一陣ノ風吹キテ思ヒ掛ケ無キ粉々タル臭気左右十二室ニ、遠クハ新聞室、食堂ニマデ及バン事必セリデアル。
- ◎一寸忘レタガ、先ツ第一ニ僕ガ此ノ文ヲ書ク先頭ニ僕ハ本日（六月十五日札幌神社ノ祭礼ノ昼食）ニ食事時間ノ約廿分計リ後レタノ事ヲ諸君ニ謝セネバナラヌ、実ニ全ク僕ノ罪デアル、僕ノ罪ハ罪トシテ言ヒタイノデアル。
- ◎本日ハ昨日来北風吹き且ツ雨サイ交リテ気候変化ガアッタノデ生等ノ頭脳ヨリ■腸マデ少シハ影響ヲ受ケテオッタデアローカ。
- ◎食事ハ如何ニ後ルヽト雖モ一時間モ後レヌノデアル、又後ルヽ事モ極メテ稀デアル。此ノ為メ時ハ練習ノ為メ少シハヒモジクトモ堪エテ見ルガ好イ、僕等ノ出世シテ一家ノ経劑〔濟〕ヲ処理スル中ニ当リ、或ハ南風競ハズニアラズシテ炊烟上ガラズシテ一食ニ絶食スル事ガアルカモ知レヌ。
- ◎健体ヲ有スル者ハ一日間位絶食スルモ堪エラレヌ事無キ筈デアル況ンヤ十分、廿分ノ遅ルヽ事ヲヤデアル、是ニ依テ此ヲ見レバ、拍子木ノ鳴ラヌ内ニ食卓ニ向フ者ハ気俛者、或ハ弱志漢ト断定セザルヲ得ヌ。

- ◎一ケ人ノ事ナラ何デモ好イ、憐ノば一やヨリ例ノフカシ饅頭ノトキニハ敢テ時ヲ守ル事モ無イ、意ニ従テ何時デモ食フガヨイ。
- ◎然レドモ団体トシテアル間ハ団体ノ規約ヲ守ラナケレバナラス、下宿ヤ他ノ下宿ナライザ知ラズ。
- ◎我ガ青年寄宿舎一自治ノ旗ヲ立ツル処ノ我等ハ他ノ下宿ト同一視シテハ困ル（余リ過言カモ知レヌ、然レドモ決シテ悪意アルニアラズ）
他ノ下宿ヤ寄宿ニ於テハ御飯ノサイソクモ可ナランシ、賄方征伐モ可ナラン。
- ◎ガ、我等ノ寄宿ハ一体デアル、委員等アツテ各々事ヲ分担スルノモ便宜上ノ事デ皆僕等各自ノナスベキ事デアル。
サレバ、飯時ガ後レテモば一やト僕ノミガ悪イノデナイ（此ンナ事思フ人ハナイケレドモ）、ツマリハ各自ガ己レノ事ト思フベキデアル。
- ◎無論吾等ニハ慾ガアリテ相当ニ此ノ慾ヲ満タス事ハ必要デアル。
朝ノ食事ヲナサズシテ（例ヘバ朝ノ食事ノ時間外マデ寝過ゴシタトキ）其他ノ事情ノ下ニ非常ニ腹ノ空キテ堪エラレヌ様ナ事モアロー
ガ、其処ナンダ、我一人ト思フテ規則ヲヤブレバ他ノ余リ腹ノスカヌ者マデ伝染病ノ如クヒモジサガ堪エラレズシテ規則ヲ皆シテ破ル事モアロー。
- ◎余リ書き散ラシテ後ハ何ダカ諸君ニ対シテ氣ノ毒ニ感ズル。決シテ我ガ寄宿軍隊的ノ厳刻ノ処デナイ極メテ平和ナ心安キ団体ナノダカラ決してきう屈ナ思イハイラヌノデアル。必ズシモ拍子木ノ鳴ル、鳴ラヌニハヒドク関係シナイ（前言ト反対スル様ナレドモ）
- ◎此ノ辺ハ各自ガ **commonsense** ヲ以テ断ズベキデアル。
- ◎サレバ今日ノ様ニ後レタル混雑ナル時（実ハ御こはガ出来テユズ、且ツ山ナス山川ノ珍味デ中々ニ分配ニ忙殺サレタノデス）ニハ新聞室クライデ新聞カ雑誌デモ見て大人シクシテ居レバ好イ子デアル。
- ◎ガ、食堂ヤ賄部屋マデモ侵入シラレテハタマラス。サナクモ熱中シテアルば一や女王ハ益々熱シテクル。
其上万事整頓セヌノニ、ヘラヨシャクシヨゴマ塩ノセキ立テラレテハ甚ダ以テ……デア
ル。
- ◎甚ダツマラス事ヲ長々シク書き散シテ失礼且ツロキタナキ点モ、角立チシ処モアッタノダローガ
僕ハ幸カ不幸カ此ノ様ナ事ガ兎角目ニ入り且ツ、言ハズニ居ラレヌ、又斯克ノ如キ事ハ誰シモ口外スルノヲ可笑シク思ッテ注意スル人モ無キ故書き記シタノデス……勿論好意ヲ以テ。